

2026 年 10 月 15 日

報道関係各位

大成有楽不動産株式会社



GOOD DESIGN AWARD 2026

グランツオーベル瀬田一丁目が「2026 年度グッドデザイン賞」を受賞

～国分寺崖線の風景を未来に継承する全 12 邸の新築分譲マンション～

大成有楽不動産株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：植草健史）は、新築分譲マンション「グランツオーベル瀬田一丁目」（東京都世田谷区・総戸数 12 戸・2026 年 9 月竣工）がこのたび 2026 年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞しましたのでお知らせいたします。（応募カテゴリー：中～大規模集合住宅）

本物件が位置する国分寺崖線は、多摩川が武蔵野台地を削って形成した段丘状の地形です。世田谷区内では樹林や湧水、寺社や古墳などが残る地域の重要な景観・環境資産である一方、建替えや敷地更新に伴い、邸宅の庭園や樹木など、地域景観が育んできた緑や邸宅文化が失われつつあります。

「グランツオーベル瀬田一丁目」では、計画地にかつて存在した邸宅の空間構成やランドスケープ、周辺地域に見られる植生や素材を読み解き、現代の集合住宅として再構築し、土地の記憶と地域の風景を次代へ継承することを目指しました。



外観

<グッドデザイン賞審査委員による評価コメント>

国分寺崖線は、都内に線状に残る貴重な自然環境であり、またそこに建ち並ぶ住宅群がつくる風景は、別荘地として育まれてきた歴史を伝える文化資源でもある。その価値を最大限に尊重して行われた計画は、秀逸である。ボリュームを抑えた分棟配置にしたことは、極めて懸命な判断であるし、またこの配置がもたらした空地は、既存の植生を継承したランドスケープデザインとして、周辺環境と見事な連続性を保持している。ここに住むことは、もちろん快適であるに違いないが、地域の住民にとっても、ここで生み出された自然環境が、将来にわたっての貴重な地域資源にもなるであろう。

「グランツオーベル瀬田一丁目」の3つの設計方針

1. 【環境】崖線の環境を取り込み、地域へ緑を開く

従前地となる邸宅の既存樹木と国分寺崖線や地域植生を生かし、光と風が通る住環境を再構築。生垣で閉じることなく、街路際まで植栽を連続させることで、敷地の緑を地域に開いています。

樹木の選定においては、全てを保存するのではなく、樹木の状態と地域における意味を見極め、現地保存・移植・新植を選択。地域に親しまれてきた風景の記憶をランドスケープの骨格としています。

1 現地保存

地域景観を支えてきた赤松・黒松

長年にわたり街路景観を形成してきた赤松・黒松を現地で保存。計画後も同じ場所で地域の風景を支える象徴として生かした。



2 移植樹木

土地の記憶を伝える移植樹木

前邸宅で親しまれてきたサンゴジュやシダレウメ等を、樹木の状態を確認したうえで一時的に場外へ移植・養生し、工事後に敷地内へ戻した。地域住民の記憶を新たな風景へつないでいる。



新植

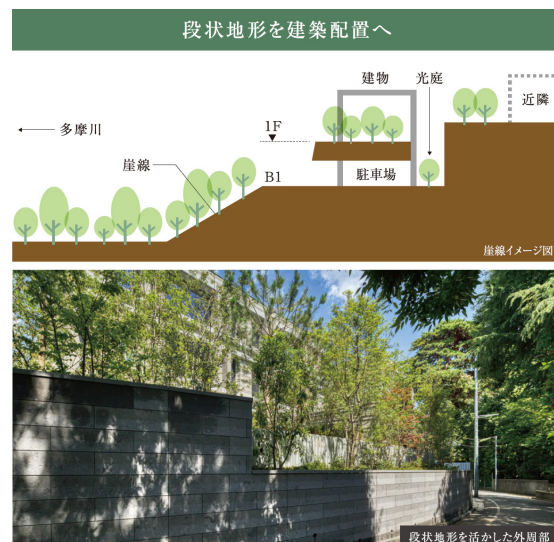
地域植生との連続性をつくる新植樹

国分寺崖線や周辺寺院、隣接地に見られる松やサクラ、モミジ等を選定。既存樹木の再現ではなく、この地に育まれた植生を敷地内へ引き込んだ。



2. 【景観】分棟配置など圧迫感を抑えた景観形成

建物を一体化して配置するのではなく、複数棟に分ける分棟配置を採用しました。模型による検証を重ね、周辺住宅地からの見え方や建物同士の関係を調整しています。これにより、街路から見た建物のボリュームを抑えるとともに、住棟間に光と風の通り道を確保。敷地内には緑地や専用庭などの余白を設け、建物、植栽、周辺の街並みが連続する景観を形成しています。



道路から擁壁、植栽、建物へと高さを段階的につなぎ、国分寺崖線に見られる地形構成を建築配置へ読み替えた。



建物の気配を抑える

建物を植栽や擁壁の奥へ配置することで、道路から見た際に建築が前面に現れないよう配慮した。

緑の層を重ねる

地被・低木・高木を段階的に配置し、擁壁と建物の間にも緑を重ねることで、崖線の植生が連続するような景観を形成した。

3. 【建物】国分寺崖線の風景を建築デザインへ展開

外壁タイル、庇、バルコニーなどの水平要素を積層し、国分寺崖線の地層を想起させる外観を構成しました。縦材と組み合わせることで、建物に陰影と奥行きを与えています。

また、地域の邸宅地で親しまれてきた石、土、焼物、鉄の素材感を現代の建築へ取り入れました。大谷石の石積み景観を白河石で更新したほか、レンガ透かし積み、左官、版築、ロートアイアンなどの素材や手仕事を共用空間や外構に採用しています。

地層を表す水平ライン

外壁タイル、庇、バルコニー等の水平要素を積層し、国分寺崖線の地層を想起させる外観を構成。内外から樹幹に見立てた縦材と組み合わせ、建物全体に陰影と奥行きを与えている。



地層を想起させる土系仕上げ

版築、左官、金属左官を組み合わせ、地層や土の重なりを想起させる質感を表現。均質なコンクリートや金属だけでは得られない、手仕事の痕跡を建築に残した。



「グランツオーベル瀬田一丁目」について



外観（エントランス）



ラウンジ（地下1階）

物件概要

所在地	東京都世田谷区瀬田1丁目 968番9（地番）
アクセス	東急田園都市線・大井町線 「二子玉川」駅徒歩9分 東急大井町線 「上野毛」駅徒歩11分
敷地面積	1,597.10㎡
延床面積	2,640.18㎡
構造	鉄筋コンクリート造
規模	地上3階・地下1階建
戸数	住宅12戸（他に管理事務室）
間取り （専有面積）	3LDK （121.48～175.36㎡）
設計	株式会社陣設計
デザイン監修	デザイン・ファーム合同会社
施工	株式会社鍛冶田工務店
管理会社	大成有楽不動産株式会社
竣工	2026年9月
物件サイト	https://ober.jp/seta1/

「リリースに関するお問合せ先」

大成有楽不動産株式会社 経営管理本部 総務部 広報・サステナビリティ推進室
TEL 03-3567-9411 / E-mail : press-cc@taisei-yuraku.co.jp